

「真のワーク・ライフ・バランス」実践エピソード募集!



京都市では、家族や地域との「つながり」に着目し、京都発の新しいワーク・ライフ・バランスの考え方を提案しています。

この度、「真のワーク・ライフ・バランス」の考え方を、具体例を通してより多くの方々に知っていただくため、実践エピソードを広く募集しています。

※「真のワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事」「家庭」「地域・社会」での「つながり」を大切に、そこで求められる役割や責任を果たすことで、心豊かな人生を送ることを目指すもの。

募集期間

平成25年6月20日(木)～9月20日(金)(当日消印有効)
※詳しくは、<http://www.city.kyoto.lg.jp/bnshi/page/0000150255.html>へ!

懸賞

先着100名様に記念品を進呈!
さらに抽選で20名様に素敵な懸賞グッズを進呈!

副賞

選考により京都市「真のワーク・ライフ・バランス」推進市民表彰を実施。受賞者の方には、表彰状及び副賞として賞金最高30,000円を贈呈します。

▶ 京都市男女共同参画センター ウィングス京都からのお知らせ



図書情報室の御案内

◇女性の視点で考える災害ブックリスト

ウィングス京都図書情報室は、男女共同参画社会の実現を応援する図書室で、どなたでも気軽に御利用いただけます。防災や災害と男女共同参画にまつわる資料や図書も所蔵しています。その一部をご紹介します。

お問合せ 図書情報室 ☎075-212-0606

◆震災と女性の視点



「復興に女性たちの声を〜「3.11」とジェンダー〜」
とジェンダー」
村田晶子編著
32/ム



「災害復興 東日本大震災後の日本社会の在り方を問う〜女性こそ主役に!〜」
日本弁護士連合会編 32/サ



「女たちの阪神大震災」
猪熊弘子編著
32/イ

◆新聞は何を伝えたか



「切り抜き情報誌 女性情報 2011年12月号(特集: 3.11後の女たち)」
パド・ウイメンズ・オフィス発行
Z

◆立ち上がる力・生きる力



「女たちが動く〜東日本大震災と男女共同参画視点の支援〜」
みやざきの女性支援を記録する会編著
31/オ



「生き延びるための思想 新版」
上野千鶴子著
13/ウ

<発行>

京都市文化市民局共同参画社会推進部男女共同参画推進課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺町 488
TEL : 075-222-3091 FAX : 075-222-3223
http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-1-2-0-0_1.html

<企画・編集>

公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262
TEL : 075-212-7490 FAX : 075-212-7460
<http://www.wings-kyoto.jp>



京都マラソン 12月16日(日) 大倉山コース



女性も担う, 防災・復興

男女共同参画通信

August.2013
©Kyoto City

Vol. 34

2.3

女性消防団員の割合
(内閣府男女共同参画局
「男女共同参画白書」(2013年)より)

女性も担う、防災・復興

2011年3月11日14時46分、マグニチュード9.0の巨大地震と、それに伴う大津波が東日本を襲いました。その爪あとは大きく、復興への取組はいまだに続いています。この関西で発生した1995年の阪神淡路大震災をはじめ、新潟中越沖地震や、奥尻島の津波など、日本人として忘れてはいけない数々の災害があります。地震などを体感するたび、それらを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

日本は紛れもない地震大国です。そこで暮らす私たちが防災の意識を高めることは大切なことです。また、復興への長期的な取組も必要です。これらの取組に「生活者としての女性の視点」を盛り込むことは重要で、2年前、東北の避難所で、扱いに悩む下着などを安心して干せるようにと、女性の洗濯代行ボランティアが活躍したのはその一例と言えるでしょう。

被災地では、避難所が設置され、多くの被災者がそこで生活を余儀なくされることとなります。しかし、避難所運営や復興作業は男性中心で行い、食事の準備や清掃、子ども世話などは女性が担うべきという、作業分担に性別を固定した役割分担を求める社会通念は根強いものがあります。このような発

想で避難所運営をしていくと、どうしても女性や子ども、高齢者等の弱者の視点が取りこぼされていくことになり、これまでの数々の事例からも、避難所を運営するうえでの問題点や改善点が浮かび上がっています。例えば、生理用品や着替え場所などの物理的な問題のほか、被災地でのDVの増加、また性暴力の事例などが報告されています。

このような状況を受け、国の「第3次男女共同参画基本計画」や、「第4次京都市男女共同参画計画 きょうと男女共同参画プラン」においても、防災（復興）分野における男女共同参画の推進が必要であるとされ、平成24年10月に策定された京都市避難所運営マニュアルには、運営協議会への女性の参加や、男女別更衣室の設置、相談体制の確立など、多くの男女共同参画の視点が盛り込まれました。

そして、現在、このマニュアルのひな型を基に、避難所ごとの避難所運営マニュアルの策定を進めており、多くの地域の女性に参画いただく中でマニュアルに基づく避難所運営訓練を行うなど、地域防災の取組を自治会や町内会の皆さんとの共汗により推進しています。こうした取組を通じて、地域における防災機

能の強化を図っていくとともに、更なる地域コミュニティの活性化にもつなげていくことを目指しています。

また、2013年5月には、内閣府から「男女共同参画の視点からの防災復興の取組指針」が公表され、地方公共団体が取り組むべき指針が示されています。災害の現場で男女共同参画の視点を生かすためには、平時からの男女共同参画社会の実現が重要であり、その基盤があつてこそ、防災・復興を円滑に進めることができるのです。

では、防災や復興に男女共同参画の視点を取り入れるために、私たちが普段からできること、考えておくべきことはどんなことでしょうか。まずは粉ミルクや防犯ブザーといった、女性の視点での防災グッズリストや、ハザードマップ作りをして地域での防災活動につなげていきましょう。地域での声掛けやコミュニティ作りにより、高齢者や一人暮らし世帯、シングルマザーなど、どのような人が身近にいるのかを把握することで、いざという時の孤立化を防ぐことも大切な活動です。また、近年では、地域にいる時間の長い女性のネットワークを活かしていくために、女性消防団員の活躍が目まぐるしく見られます。消防団は、消防組織法に基づいて設置される、般市民で構成される消防機関です。平成24年の全国女性

消防団員数の割合は、消防団全体の2.3%。この10年でようやく倍増しているとはいえ、まだまだ女性の参画が期待される分野です。

ところで、京都市では平成25年4月1日時点で、全消防団員4,315名のうち、女性団員が335名。割合で見ると7.8%と、全国でも女性消防団員が多い先進的な街ということ、を、ご存じでしたか？京都市には消防団活動に意識の高い市民が多く、主婦や働く女性なども多く参加しています。

いざという時に備え、このような活動に参加することで、防災資材の取り扱いに慣れることもできますし、救急救命の知識や技術を身につけることにも役立ちます。自分が地域でできることを選択肢に、この消防団活動を含めてみてはいかがでしょうか。

これらの取組を更に拡大し、より充実したものにするためにも、京都市で行っている避難所ごとの運営マニュアルづくりや、防災会議など、意思決定の場に多くの女性が参画することで、国や地域の防災計画などに女性と男性双方の意見を取り入れることや今まで見過ごされがちだった女性の視点や、子育て・介護のニーズなどをしっかりと反映させていくことが可能になるのです。今後は、防災・復興の分野に男女共同参画の視点を活かすためにも、女性の積極的な活躍がますます重要になるでしょう。

女性消防団員の割合

(内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」(2013年)より)

2.3%

